瓠是女青別名、草蓋相似、以葉似女青、故兼名雀瓢、〇略中爾雅、藿芄蘭、郭云藿芄蔓生、斷之有白汁可啖、禹錫曰、如此注則似藿芄一名蘭、或傳寫誤、芄衍字、焦循曰、田野間所謂麻雀棺者、蔓生、葉長二寸、橢圓上銳、藤柔衍斷之白汁出、實狀如秋葵實而冥、霜後枯、破內盈絨、準之本草諸家之說、此爲芄蘭也、雀棺乃雀瓢之遺稱、而棺音同莞、爾雅名藿、說文名莞也、

〔多識編二蔓草〕蘿摩、何波禰久左、今案可可伊毛、

〔和爾雅七草木〕蘿摩（カガイモ）雀、芄蘭、白環藤、並同、實名雀瓢、（チグサ）

〔物類稱呼三生植〕蘿摩ちゝぐさ　京にてちぐさ、又らまさう、江戸にてちゝぐさ、又らまさうともいふ、上總にてやいとばな、花灸に似たりつくしにてがぶなといふ、土佐にてがゞいもといふ、

〔東雅十五草卉〕芄蘭カゞミ　倭名抄に本草を引て、蘿摩草一名芄蘭カゞミ、徐長卿はヒメカゞミ、白前はノカゞミ、白蘞はヤマカゞミと註したり、芄蘭白蘞共に藤生す、芄蘭は籬落の間に蔓延して、白蘞は山谷の間に生じぬれば、山カゞミといふ、白前は洲渚沙磧の上に蔓生して、芄蘭に似たる所あれば、ノカゞミといひ、徐長卿は藤生にはあらねど、其子の蘿摩子に似て小しきなれば、ヒメカガミといひしなり、少彦名神天羅摩船に乘り給ひしとも、白蘞皮をもて船とせられしとも見えて、並に讀てカゞミといひしは、卽是等の物なり、たゞ其のカゞミといふ義は不詳、舊事紀には兩說を併せしるされしを、古事記には天之羅摩船とし、日本紀には白蘞皮を船とすと見えたり、羅摩船とは其實をいひ、白蘞皮とは其根皮をいひしなるべし、共に其小しきなる事を象り云ひしなり、羅摩は其義は今俗にチゲサといふなり、莖葉共に皆白乳汁あるをいふなり、徐長卿は俗にフナハラといふ、カゞチといひ、カゞミといふも、並に太古の時に聞えしなり、カゞチは赤き事、アカカゞチの如しと見えたれば、そのカゞミといふは、赤くして赤きの義とも知らるゝなり、もし其例によらばカゞミとは、其實の赤くして赤きを云ひし如くなれども、カゞミといふものゝ實、然ろにもあらず、蘇頌本草によるに、白蘞の一種赤蘞といふは、花實功用皆同、白蘞、但し表裏俱に赤しと見えたり、されば此物によりてガゞミの名あるべしとも思はれず、凡そ古語の一例なもて推すべからざるか、かゝる事ども多し、

〔庖厨備用倭名本草五菜〕蘿蔔（ラマ）　倭名抄ニ蘿蔔ナシ、多識篇ニカバチクサ、今案シカイモ、考ニ本草ニ蘿